



## 中部中学校区人権のフォーラムが、開催されました

12月11日に、『中部中学校区人権フォーラム』が、校区の川崎小学校で開催され、本校から人権サークル「スマイル・クローバー」のメンバーが参加しました。今年のフォーラムが当初11月に開催の予定でしたが、中部中校区内の各学校でインフルエンザの感染が多く、この11日に日程を変更し、中部中校区の各学校と川崎小学校をオンラインで結ぶ形式で行われました。

講師に、亀山市人権ダイバーシティグループの加藤武先生をお招きし、『『子どもの人権について』～子どもの権利について～』というテーマでお話をいただきました。公演の最後に、京都府亀岡市立育親学園、寺竹瑠音さんの人権作文「悪口」が紹介され、作文を読んだ感想が交流されました。

中部中学校からは、次のような意見がでました。

「思ったことを話したくなる気持ちはわかるけれど、でもその言葉できずつくなら、心の中にしまって、自分自身が周りの悪口を止められる第3者になれることが大切だと思う。もっと深く自分たちにできることを考えていきたいです。」

講師の加藤先生からは、

「悪口（差別）を、一人で止めるのがしんどい時は、おかしいと思っている仲間と一緒に、悪口を言っている人に話をする。例えば、一人の人が悪口を言っていたら二人の仲間でそれを止める。二人の人が言っていたら三人の仲間で止める、など。」

「悪口」

京都府 亀岡市立育親学園 八年 寺竹 瑠音

悪口を言って人を傷つけてしまったことがある。その時の記憶がときどき顔を出して私の心をざわざわさせる。

その日、遊ぶ約束をして集まった友達数人と夏休みの宿題の進捗状況や、最近はやっている推しの話など、たわいのない話で盛り上がりつつあった。そのうち話題は部活動や学校の話へと移っていき一人の友達の話になった。私もたまたまその子のことで困っていることがあったのでつい話に乗ってしまった。始めのうちはただの相談会のような雰囲気だったのだが、その子のせいで困っていることや腹が立ったことなどを話すうちに、みんなの気持ちも昂ってしまったのだらう、話はどんどんエスカレートし、悪口に発展してしまった。私も、大して気になっていなかったことに對しても「わかるわかる。」と共感してしまっていた。そのうちに、私たちの会話を聞いていた一人の子が、「やめようや。」と言って私たちを止めてくれた。その瞬間、何とも言えない気まずい空気が流れ、私はしばらく何も言えなかった。振り返ってみると、この時の私には盛り上がりつつあった空気を壊されたという不満の気持ちの方が強かったのではないと思う。その後、私たちが言ってしまった悪口が本人の知るところとなり、深く傷つけてしまった。「ばれなければいい。」という考えのもと無責任な発言をし、それを共有することで生まれる連帯感。そんな仲間意識は実はいじめなのだというところにこの時の私は気づいていなかった。

集団生活の中では、日々いろんなことがある。当然自分と合わないと感じる人も出てくるし、考え方の違いや意見が行き違うこともある。そんな不満がつい悪口という形で出てしまうことは、正直誰にでもあるのではないと思う。しかし、私たちが間違っていたのは、一人の子を「ねた」にして「悪口」という行為を楽しんでしまったこと。そして、もし自分が「悪口」を言われている側だったらという想像力が欠けていたことだ。本人のいないところで中傷は「いじめ」だ。

私には、その場の空気に流されて深く考えずに行動してしまう弱いところがある。私自身、過去に冷たい言葉を吐かれて傷ついた経験があるのに、「悪口」を言う自分を止めることができなかった。あの時、相手の気持ちを考えなかったこと、そして、第三者が止め

てくれなかったら「悪口」はもっとエスカレートしたかもしれない——そう考えると、自分の軽率な行動がますます許せなくなる。一度吐いてしまった言葉は二度と取り消すことはできない。深く反省し、友人にも謝罪をした。友人は、謝罪を受け入れてくれたが、友人との関係は元どおりというわけにはいかず、小さなしこりが残ったままだ。

「空気を読む」という言葉がある。その場の空気を敏感に察知してうまく行動することだ。反対に「空気が読めない」ことを揶揄する言葉「KY」という言葉も生まれた。ノリが良かったり、場の盛り上がりに参加しなかったり、時には「正義」さえも茶化してしまう言葉だ。この言葉のせいにするつもりはないが、この「空気を読む」ということに私たちはものすごく敏感で、縛られているような気がする。「空気の読めない子と思われたくない。」そんなマイナスの感情が行動にも表れてしまっているように思うのだ。あの時、悪口を止めてくれた子は、あの瞬間、私たちの中では「KY」だった。「せっかく盛り上がっているのに自分だけいい子ぶって…。」と。けれど、陰口を止めてくれた子にとって「やめようや。」の一言がどれだけ勇気を必要とする行動だったのかということが今ならわかるし、素直にすごいと思う。

今年の夏休みはパリオリンピックが開かれ多くの日本人選手の活躍が連日報じられた。一方で、負けた選手の言動に対して多くの誹謗中傷がSNS上に書き込まれるというマイナス面も取り上げられた。このニュースを聞いて、なぜ頑張った選手に対して嫌な言葉を浴びせるのか。匿名であることを利用して悪意ある言葉を書き込むなんて卑怯だと腹が立った。しかし、その一方で、私がやったことも本質的にはこの人たちと同じなのではないかということも気づいた。本人のいないところで悪口を言う、「ばれなければいい。」という点でこの卑怯な人たちと同じではないかと。

もし、あの日に戻れるとしたら「直接本人に言ったら？」という一言が言えるだろうか。あの日から一年。傷つけた友人と何のわだかまりもなく会話ができるようになるまでの時間は、私自身の弱い部分や課題と向き合う時間だと思っている。この後悔を二度と繰り返さないよう、自分の言葉には責任を持ち、相手の立場に立って考えられる人になりたいと強く思っている。

悪口がおかしいと思う人たちの仲間とつながり、そのつながりやその仲間を増やして悪口や差別をなくす、そんな関係や思い、行動を大切にしてください。」と話がありました。

今回のフォーラムの様子は後日人権サークル「スマイル・クローバー」のメンバーから報告される予定です。

## 「PTA 親子愛校作業」ありがとうございました！

11月29日、「PTA 親子愛校作業」にご参加いただきありがとうございました。1年生の生徒と保護者の皆さまのほか、今年是有志で2・3年生の生徒の皆さんもたくさん参加してくれました。第2グラウンドの草取りや第1グラウンドの除草、フェンスの蔦とり、旧クラブハウス裏の樹木の処理を行っていただきました。愛校作業当日に先駆けて、グラウンド土手の除草作業を保護者・地域のボランティアの皆様にもご協力をいただきました。グラウンド周辺や校舎まわりが一気にきれいになり、とても活動しやすい環境になりました。

参加した子どもたちにも、一生懸命作業に取り組む姿がみられました。今後も、PTAの皆さまに何かとご協力をいただくこともあるかと思いますが、ご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

また、地域のボランティアの皆様には、9月より旧クラブハウス裏山の樹木を伐採していただきました。中部中学校が現在の位置に移転以降伸び続けていた裏山の木々を伐採していただき、たいへんすっきりとした状態になりました。作業でお世話になった地域の皆様本当にありがとうございます。



きれいに整備された第1グラウンド



木々が伐採された旧クラブハウス裏

## 保護者懇談会 お世話になります！

18日より、保護者懇談会がはじまります。たいへんお忙しいところ、ご出席いただきます。よろしくお願いいたします。

また、3年生に関わり、進路に関する内容につきましては、保護者懇談会に限らずお早めに担任、進路担当へご相談ください。

## 学校閉校日のお知らせ 12/28～1/4

12月28日（日）～1月4日（日）は、学校閉校日となっています。この期間内は、学校には教職員が不在となりますのでご承知おきください。なお、万が一、病気やケガ等、緊急な連絡がある場合は、下記までご連絡をお願いします。

【連絡先】 亀山市教育委員会学校教育課 ☎0595-84-5075

（夜間・休日）亀山市役所代表 ☎0595-82-1111